

令和5年度 第3回 学校運営協議会議事録

校名	府立むらの高等支援学校
校長名	森本 裕

開催日時	令和 6年 1月 26日 (金)
開催場所	むらの棟1F 校長室
出席者 (委員)	(会長) 荒木 寛巳 (委員) 石神 彰人 富田 雅信 三瀬 吉彦 浦塚 久美子 ※順不同、敬称略
出席者 (学校) ※回覧	(校長) 森本 裕 【事務局】(教頭) 野村 佳津 (事務長) 山地 千里 藤川 泰生 速水 彬裕 重松 亮 橋本 義久 阿南 幸佑 岩里 哲朗 吉田 聖名子 上田 航 遠藤 幸子 新澤 隼人
傍聴者	なし
協議資料	①協議会次第 ②令和5年度「学校教育自己診断」の実施結果および分析・考察について 令和5年度学校教育自己診断の結果[本校][共生] ③公開授業週間アンケート集計結果 ④後期授業参観アンケート集計結果 ⑤令和5年度・令和6年度学校経営計画概要 ⑥令和5年度学校経営計画評価 ⑦令和6年度学校経営計画 ⑧未来をみつめて、いま～むらの10年ビジョン～
備考	後日、議事録を学校ホームページで公開

議題等 (次第順)
○資料確認……………教頭より 1) 校長挨拶 2) 報告 ・令和5年度学校教育自己診断について (資料②) [首席] ・公開授業週間アンケート集計結果について (資料③) [教務部長] ・後期授業参観週間アンケート集計結果について (資料④) [教務部長] 3) 協議 ・令和5年度学校経営計画評価 (案) について (資料⑤⑥) [校長] ・令和6年度学校経営計画 (案) について (資料⑦⑧) [校長] 4) 意見交換 5) 校長挨拶 6) 事務局より
協議内容 (質問・意見の概要)
【委員による協議、意見交換】 ＜令和5年度学校経営計画評価 (案)、令和6年度学校経営計画 (案) の承認について＞ ・厳しい評価だと感じる。達成できなければ、高い数字であっても△などになっている。目標設定が正しいのかと感ずるところがある。 ・高等支援は母数が少ないので、1, 2人の違いが数字に影響する。90%という数字を掲げ、達成すれば、次年度はそれ以上、と上回る設定となるのかと思われる。 →＜校長＞令和5年度学校経営計画評価内の、※のコメントに記した内容を重要視している。改善の余地があれば、数字が高くて改善して次年度は100%になるように取り組んでいきたい。△も○にしていきたいと思っている。 ・本校が取り組んでいることは、目標がそもそも高いと感じている。大切なことは、何をしていかなければならないかであると思う。長い間取り組んでいる中で、成果や評価を数字で表すことそのものが、難しいのではと総じて感じる。 ・学校は時間をかけて、生徒を育むところだと思う。 ・企業からの学校見学について、今回70社とあるがどのような依頼があるのか、内訳はどのようなものなのか？ →＜進路指導部長＞様々なパターンで見学がある。学校からハローワークにも、本校のことを伝えて欲しいと伝えている。「これから雇用を考えたい」、「業績がよいので、さらに雇用を考えている」、

などいろんなケースがある。来校されたら、校内案内などを行っている。実際に、生徒をみていただいたうえで、どのようなニーズを企業が持っておられるかを伺っている。企業開拓するやりとりの中で、本校のことを企業にご理解いただくことが多い。また、学校を実際にみていただくことで、実習につながるが多い。

- ・10月より、天の川カフェが外部に向けても再開したとの報告があった。地域で学校周辺を回っている際に、カフェを実際利用した。今後も利用していきたい。

- ・公開授業のアンケートをみると、本校の事を評価してくださっていると思う。高等支援学校の事をもっと知ってもらい、理解してもらいたいと感じる。

- ・就労後の定着率が高いことは、マッチングとアフターフォローなど、先生方が頑張ってくださっていることが、あらわれていると感じる。一方、学校教育自己診断の教員に関する質問に対して、「あてはまらない」という結果があるが、様々な取り組みを学校がしているので、生徒と先生とのコミュニケーションを大切にしてほしい。このような点が学校の評価にも影響するのと感じる。

- ・高等支援の理解がひろがっていないのではないかと感じるところがある。一方、公開授業アンケートの結果を見ると、「むらのへの進学を進めたい」という回答がある。中学校等の教員の方にむらのの良さを理解していただき進路指導に活かして本校への進学希望者が増えたらいいと思う。

- ・共生推進教室の生徒の様子について

→<首席>共生推進教室の生徒で、本校に登校ができていたが設置校に登校ができていなかったり、またその反対の状況もある。生徒の障がい受容など、個々の実態の把握・支援などは継続した課題である。生徒の「学校は自分の居場所」という思いに寄り添った支援が求められている。

→<校長>組織改編により、支援教育部の立ち上げを行う。生徒の教育的ニーズが変わる中、力をつけていくために、生徒指導と支援のバランスを考えて、どのようなアプローチが必要であるかを検討し、体制を整えていく。

- ・「めざす学校像」「チャンス・チャレンジ・チェンジ」の取り組みは、意味が分かる表現になった。

- ・「関連機関と連携する」でなく。「連携することをめざす」、という表現にしてはどうか。

- ・教職員がやりがいのある職場づくりという考えは、結果的に、先生方の思いや喜びが、生徒に伝わると思うので大切な提案だと感じる。

- ・10年から、さらなる10年を見据えた提案となっている。また、教職員の職場環境の改善、地域とのつながりを意識した提案はとても重要である。

- ・学校運営協議会が、委員間で意見を交え、より充実したものになるよう今後もすすめていければと思う。

- ・「めざす学校像」と「中期的目標」を承認する。

<今後の展望（まとめ）>

- ・就業・生活支援センターからみて、コロナ禍以前と今を比べると、4月から法定雇用率が変わり、会社側も法定雇用率の対象となる人材を求めている。雇用情勢は回復してきているが、働き方やスタイルも変化してきているので、それらに対応できる力を育むことが求められる。

- ・枚方市は、「スマイル&ミュージック」の事業を今後も継続していく。音楽を通じた文化芸術の取り組みを、形は変わるかもしれないが、継続して実施していく。

- ・学校周辺の再開発に伴い、工事が入り農地がなくなるところがある。田植えなどができる間に、また以前のように一緒に取り組みができたらと思う。

- ・専門学科成果発表会に出席した。発表は素晴らしかったし、木工製品も購入した。どちらも生徒たちの社会での活躍が期待できるものだった。卒業生の今後を期待している。

- ・本校は、就職をめざす学校ではあるが、社会に出た時の厳しさや大変なことだけでなく、楽しいこともあることを教えてほしいと思う。

- ・来年度は、開校10周年となる。今後は、その後の10年（20周年）に向けた、ビジョンを持って取り組んでいく。